

(仮称) 富士川町立統合中学校学校経営案について

「Society5.0」の到来に向けて、学校教育は大きな転換期を迎えている。文部科学省は、新しい時代における学校の在り方や役割について、次のように述べている。

「学校とは、社会への準備段階であると同時に、学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもある。子供たちは、学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくなりましたりできることなどの実感を持つことができる。子供たちに、新しい時代を切り拓(ひら)いていくために必要な資質・能力を育むためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である。」(文部科学省「2030年の社会と子供たちの未来」)

また、令和5年度山梨県学校教育指導重点においては、これからの時代に必要な新たな能力として、「情報編集力」(自由な発想で柔軟に考える力)を説いている。さらに、第二次富士川町教育大綱(R4~8)における3つの柱(「豊かな感性・創造性を培い、社会を生き抜く力を育成する。」・「夢と志を持ち、新時代の可能性に挑戦する力を育成する。」・「自らの人生を設計し、生涯にわたって活躍できる環境を整える。」)においても、教育環境を取り巻く大きな変化に対応するための力を身に付けさせることが学校教育の使命であることを提唱している。

以上のことから、令和7年度開校予定の新しい中学校の学校経営案は、増穂中学校・鯉沢中学校のそれぞれの学校経営案をベースにしながらも、新しい時代に沿ったものにしていくことが求められる。国や県が打ち出した新時代における学校教育の使命と町の新たな中学校の方針(両校の歴史や伝統を併せ持つ学校)を基にして、新しい中学校の「学校経営案」を次の通り作成した。

(仮称) 富士川町立統合中学校学校経営案

一. 校訓

「共創」

(多様な価値観を持つ仲間とともに学ぶなかで、将来への希望・目標・使命の実現を目指す。)

二. 学校教育目標

「ふるさと富士川町に誇りを持ち、新たな時代(未来)を切り拓く生徒の育成」

三. 目指す生徒像

- ・確かな学力を身に付けた生徒
- ・仲間と協力し、学びあう生徒
- ・夢を持ち、努力できる生徒
- ・多様性を理解し、人を尊重できる生徒
- ・健康な身体と、しなやかな心を持つ生徒

四. 目指す教職員像

- ・絶えず学び続ける教職員
- ・生徒のために情熱を注ぐ教職員
- ・目標と課題意識を持ち職務を遂行する教職員
- ・仲間と力をあわせ切磋琢磨する教職員
- ・新たなことに積極的に挑戦する教職員

五. 目指す学校像

- ・通いたい、通わせたい、勤務したい学校
- ・地域や保護者から信頼される学校
- ・町の文化の中心となる学校

補足：富士川町唯一の中学校として、地域の文化を伝承し、発展させ、発信する学校を目指す。

- ・歴史や伝統を大切にしながら時代のニーズにあった学校

六. 学校経営基本方針

学習指導の充実

- ・学習指導要領に示される「資質・能力」を育むための授業研究を実施する。

補足：「資質・能力」とは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」

- ・ICT 機器を効果的に使い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、深い学びが生まれる授業実践をする。

豊かな心の教育

- ・生徒理解に基づき、個に応じた指導及び支援を基本とした、生徒指導をおこなう。
- ・生徒一人ひとりに居場所や活躍の場があり、達成感が味わえる場を創造する。
- ・多様な価値観、自他を尊重する心を育てる教育を進める。
- ・リアルの世界を実感し、生きる喜びを感じる協働・体験活動を仕組む。

特別支援教育の推進

- ・一人ひとりの生徒に必要な支援が行き届き、生き生きと学習できる校内支援体制の整備を充実させる。
- ・「個別のニーズ」、「合理的配慮」の必要性を全職員が理解し、具現化していく。

学級経営力の向上

- ・生徒が自主的・主体的に活動する場を設定し、自ら考え、判断し、行動に移す自己指導能力を育成する。
- ・生徒一人ひとりの自己理解及び他者理解の深化を図り、多様性を尊重するような取り組みを実施する。

安心安全な生活環境づくり

- ・いじめ問題や不登校等の課題に対して、早期発見・早期対応に努めると同時に、予防に重点を置いた実践をおこなう。
- ・防災意識を高めるために、地域と連携して取り組みを実施し、主体的に行動できる生徒を育成する。

開かれた学校づくりの推進

- ・家庭、地域、関係機関との交流や協力体制を深め、積極的に情報発信する。
- ・学校運営協議会を中心に、地域社会の教育力を積極的に活用し、地域とともに学び成長する学校づくりを推進する。

小中連携の推進

- ・児童の実態や指導のあり方について理解を深め、一貫性のある教育を実践する。
- ・児童生徒や教職員の交流により、「中 1 ギャップ」を未然に防ぐなど、進学時のスムーズな移行に繋げる。

新時代に対応できる能力や資質の育成

- ・ICT 機器は文房具の一つと捉え、学びを豊かにするためのツールとして活用できる力を育成する。
- ・「正解のない課題」について仲間とともに討論し、納得解を導く「情報編集力」の育成を図る。